

「科学技術・イノベーション政策の展開にあ
たっての課題等に関する懇談会」における
議論の取りまとめについて

平成21年 7月 7日

科学技術・イノベーション政策の展開にあたっての課題等に関する懇談会について

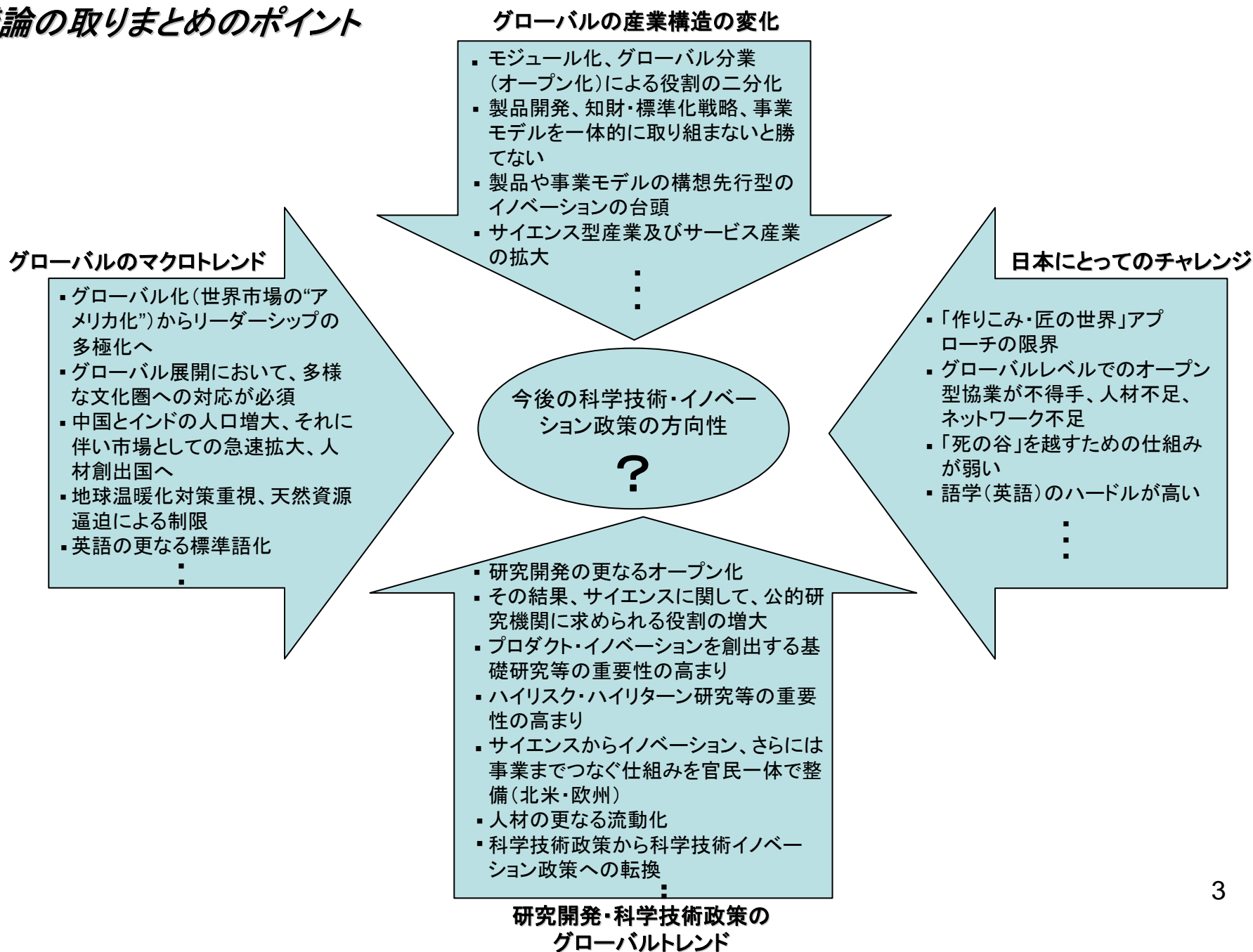
第4期科学技術基本計画の策定に向けた検討に先駆け、諸外国の動向を含めた世界情勢の変化及び今後の方向性を検討し、それを踏まえた今後の我が国の科学技術・イノベーション政策の展開にあたっての課題等を整理するため、科学技術・学術政策局長の懇談会として設置され、平成20年11月から平成21年6月までの間、議論を重ねてきた。

(委員)

飯塚 哲哉	ザインエレクトロニクス(株)代表取締役社長
○門永 宗之助	マッキンゼー・アンド・カンパニー, インクジャパン ディレクター
川上 浩司	京都大学大学院医学研究科教授
角南 篤	政策研究大学院大学准教授
妹尾 堅一郎	東京大学特任教授(知的資産経営)
高橋 真木子	東北大学研究協力部(特定領域研究担当)特任准教授
出川 通	(株)テクノ・インテグレーション代表取締役社長
長岡 貞男	一橋大学イノベーション研究センター教授

(○:座長、五十音順、敬称略、平成21年6月現在)²

議論の取りまとめのポイント



今後の科学技術・イノベーション政策を考えるための課題

全体的な課題

- 競争力モデルが変化している中で(プロセス・イノベーションや垂直統合だけでなく、プロダクト・イノベーションや水平分業などイノベーションモデルが多様化。また、イノベーションは研究開発にとどまらず、社会における普及を伴わなければならない)、日本が「科学技術創造立国」を実現するには、どのような方向付けと、仕組みの構築行っていく必要があるのか？

個別の課題

- 日本が競合優位に立つ分野や、今後優位に立てる可能性のある分野を活かして、グローバルレベルでのイノベーションをどう実現するか？(研究開発レベル及び実用化レベルの両方でのオープンとクローズの使い分け。しかも、オープン化ではアウトソーシング型だけではなく、共同連携型もどう作っていくか。)
- サイエンスからイノベーション(研究開発×実用化)へつなぐ仕組みをどのように設計するか？特に、産学官の役割分担の再構築。例えば、基礎的なサイエンスにおける学・官の役割、また「死の谷」を越えるための、産・ベンチャー・学・官の個々の役割と連携。
- サイエンス(科学)とイノベーションの「出口」はどのようにイメージすべきか？
- 以上のような要求に応えるため、国際社会の中で伍していける人材(英語力の問題を含めて)をどのように育成していくか？
- どの領域に集中的な投資が必要か？低炭素革命などの課題エリア、仕組み作りの面、人材など。